

Cマウントカメラアダプタ U-TV1XC

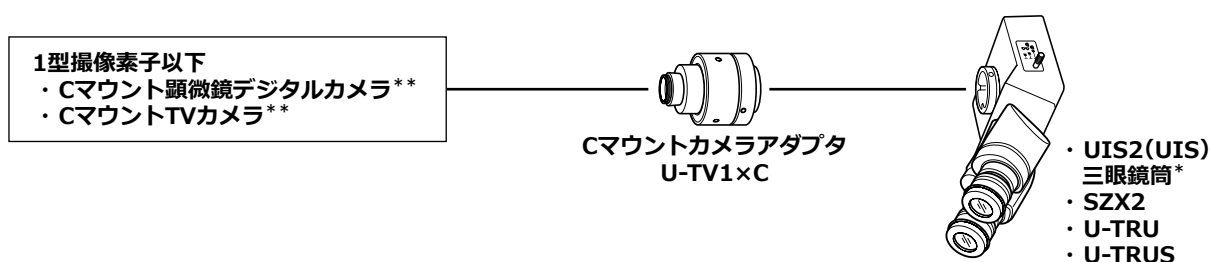
取扱説明書

このアダプタはデジタルカメラ・TVカメラなどで直接像(1×)撮影を可能とするCマウントカメラアダプタです。

本装置廃棄の際は、地方自治体の条例または規則に従ってください。

ご不明な点は、ご購入先のオリンパスの販売店へお問い合わせください。

1 システム図



* UIS2(UIS)三眼鏡筒(U-TTR-3、U-TR30-2、U-TR30NIR、U-SWTR-3など)が使用可能。ただしMVX10は使用不可。

** 使用カメラの制限条件

- ・カメラのCマウント取付部が、カメラ本体より潜り込んでいる形式では使用できない場合があります。
- ・指定の撮像素子より大きなカメラを使用すると、周辺部の光量不足またはケラレが発生します。

2 取付け方

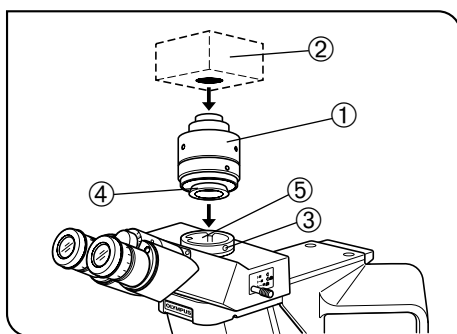


図 1

UIS三眼鏡筒への取付け(図1)

- 1) カメラアダプタ①をCマウントカメラ②に確実にねじ込みます。
- 2) UIS2(UIS)三眼鏡筒の固定ねじ③を顕微鏡に付属の六角ドライバでゆるめ、カメラアダプタの取付けアリ④を、三眼鏡筒のカメラアダプタ取付部⑤に挿入します。
- 3) 固定ねじ③を確実に締付けます。

3 使い方

顕微鏡の調整

- 1) 顕微鏡の光源を点灯し、各部の調整を行い観察可能状態にします。
- 2) 三眼鏡筒の光路切換えをカメラ光路にします。

カメラ、モニタの調整

カメラ、モニタの取扱説明書に従ってカラー調整などの調整を行います。

◎ 接眼レンズの中心とモニタの中心が合わないことがありますが、これはカメラの撮像素子の調整機構上の問題です。ご了承ください。

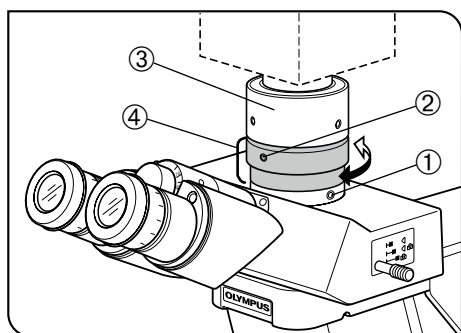


図 2

観察像とモニタ像の同焦調整(図2)

◎ この同焦調整により、観察像からモニタ像に切替えたときに、ピント合わせの補正が不要となります。

同焦調整には、顕微鏡に付属の六角ドライバを使用します。

注意 同焦調整範囲は、±1.5mmありますが、本アダプタで調整できない場合は、カメラ側のピント合わせ機能も併用してください。

- 1) 高倍率対物レンズを使用し、接眼レンズを覗いて、標本にピントを合わせます。
- 2) 低倍率対物レンズに切換え、カメラ光路にしてモニタ像を観察します。
- 3) 三眼鏡筒の固定ねじ①とカメラアダプタの固定ねじ②を六角ドライバでゆるめ、モニタ像を見ながらカメラアダプタ上部③を持って、カメラアダプタ下部④を回してピントを合わせます。
◎ カメラアダプタの固定ねじは、正面にあるとは限りません。正面にない場合は、カメラアダプタの側面や背面をご確認ください。
- 4) ピントが合ったら、①と②の固定ねじを確実に締付けます。

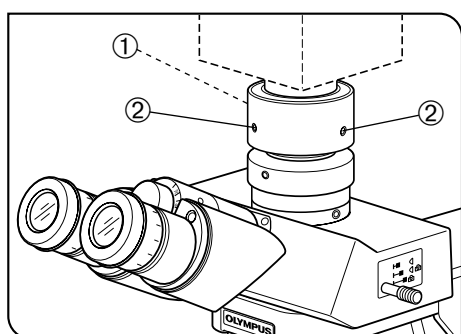


図 3

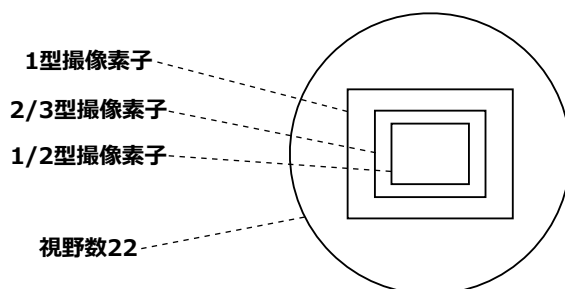
カメラアダプタの心出し調整(図3)

◎ この心出し調整により、2つの対物レンズの像ズレを減少させることができます。

- 1) LOCK表示のねじ①(1ヶ)を六角ドライバでねじがカメラアダプタ表面から3~4mm突出する程度、ゆるめます。
◎ ねじをゆるめすぎると、カメラアダプタからねじが抜ける場合がありますので、ご注意ください。
- 2) 高倍率側対物レンズを光路に入れ、標本上の目標物をステージを動かして、モニタ画像の中央に移動させます。
- 3) 低倍率側対物レンズを光路に入れ、目標物を次の方法で、モニタ画像の中央に移動させます。
(CENTERING表示のねじ②(2ヶ)に、六角ドライバを挿入し、それぞれを回して目標物を中央に移動させます。
◎ 精度を上げるには、2)3)項を繰返してください。
- 4) LOCK表示のねじ①を確実に締付けて固定します。

4 撮像視野範囲一覧

◎ 視野数22の接眼レンズ使用時の視野と、Cマウントカメラアダプタを介した撮像素子の大きさによる撮像視野の範囲を参考に示します。



$$\text{モニタ上の倍率} = \text{対物レンズ倍率} \times \text{Cマウントカメラアダプタ倍率}(1\times) \times \frac{\text{モニタ対角長}^*}{\text{撮像素子対角長}^*}$$

* モニタおよび撮像素子対角長は、メーカーにより多少寸法が異なりますのでご注意ください。

(撮像素子参考データ) 1型カメラ → 16.16mm、2/3型 → 11mm、1/2型 → 8.08mm、
1/3型 → 6 mm、1/4型 → 4 mm

株式会社エビデント



AX7900 03

2025 年 6 月発行